

2014年3月期 決算説明会 主な質疑応答（要旨）

Q1

宅急便単価の足元の状況と、2015年3月期の見通しについて教えてください。

A1

- 宅急便単価は、2014年3月期下期より進めてまいりました適正料金收受施策の効果により、今期に入り改善傾向にあります。
- 市場別に分解すると、小口商流市場では2014年3月期第4四半期よりプラス圏に入っています。
法人市場では、お客様との交渉次第ですが、改善傾向にありますので、全体の平均単価としては、579円（前年比+0.9%）を見込んでいます。
- なお、適正料金收受施策に伴い、若干の取扱数量の減少も織り込み、今期の宅急便取扱数量は17億2,400万個（前年比+3.5%）を見込んでいます。

Q2

2015年3月期の人件費予想7,440億円（前年比+5.6%）は、営業収益予想1兆4,370億円（前年比+4.5%）の伸び以上の計画となっておりますが、人件費策定的前提を教えてください。

A2

- 労働需給の更なる逼迫を想定し、人件費の予想は保守的に策定しています。
- 既に、ベースターミナルにおける作業等の一部職種については、雇用形態を含め変動費対応から固定費対応への切り替えを進めており、今期も引き続き進めてまいります。

Q3

宅配市場の環境変化、競合他社の動きについて教えてください。

A3

- 従来の競争状況から、大きな変化はありません。
- 当社としては、「バリュー・ネットワーキング」構想に基づいた高付加価値ビジネスモデルを創出することで、顧客満足を実現してまいります。

Q4

ITシステムの刷新による業績へのインパクトを教えてください。

A4

- 新しい IT システムについては、現時点では開発段階ですので、今期業績への影響はありません。
- このシステムは、ヤマトグループの基本戦略の一つである、「バリュー・ネットワーキング」構想を推進するために重要な IT インフラになると考えております。